

今月の話題

アラスカと日本を渡るハマシギ

昨年、一昨年に引き続き、今年7月米国アラスカ北部で繁殖するハマシギに野外識別用のフラッグを装着しました。昨年12月から今年5月には、これまでに標識した個体が相次いで日本で観察されました。アラスカ北部で繁殖するハマシギが東アジア地域へ渡ることは推測されていましたが、この画期的な成果で、日本がアラスカ北部で繁殖するハマシギの越冬地であることがわかってきました。これまでにわからなかった日本に飛来するハマシギの繁殖地のひとつが、解明されつつあります。

ハマシギは干潟や湿地などに棲み、日本では秋から翌年の春までの間、最も普通に見られるシギ類です。世界的に見ると北半球に広く分布し、主に高緯度地域で繁殖します。日本にはシベリアで繁殖するグループが飛来するといわれていますが、1979年秋にアラスカ西部ユーコン川河口で標識された個体が日本や韓国で観察され、アラスカで繁殖するグループの飛来が初めて明らかになりました(図上)。ただし、秋の渡りの時期のユーコン川河口には、アラスカ北部で繁殖するグループと西部で繁殖するグループの両方が集結するため、どちらのグループが日本へ飛来するのか、この時点ではまだわかりませんでした。

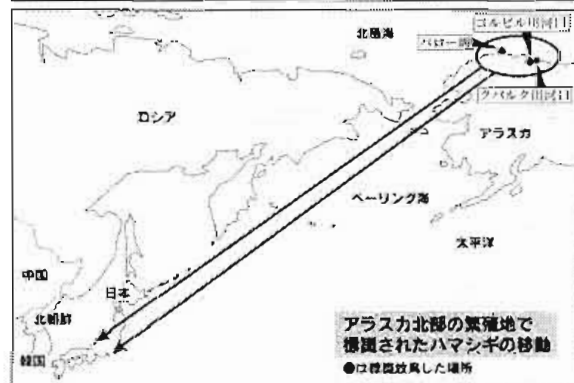
その後、1992年繁殖期の夏にアラスカ北部クバルク川河口で標識した1個体が、1996年3~4月と翌97年4月に石川県で発見されました。1999年からは日米渡り鳥等保護条約に基づいて、日米共同で毎夏、アラスカ北部の繁殖地・パロー岬とコルビル川河口でフラッグを装着する調査を実施し、2000年12月~01年5月までに少なくとも3個体が石川県や東京湾に飛来したことを確認しました(図下)。これらの事例から、アラスカ北部で繁殖するグループが日本で普通に越冬していると考えられますが、まだ数例の飛来を確認したにすぎず、もう少し裏付けが必要です。

国内ではハマシギの渡来数が近年、著しく減少しているといわれています。調査を担当する茂田研究員は「日本に飛来するハマシギの繁殖地や渡りの中継地を調べて、減少の原因を解明する必要がある」と話しています。さらなる解明に向けて、この夏もアラスカで121羽にフラッグを装着しました。皆さんがもしハマシギを観察する機会があったら、ぜひフラッグが付いているかも観察してください。



ハマシギ(チドリ目シギ科) 全長21センチ

写真は脚にフラッグを付けた個体。スズメより少し大きく、夏羽は腹部が黒い。秋や冬に日本で見られる頃には冬羽になり、上面は灰色っぽく、腹部は白くなる。(2001年7月 アラスカ・パロー岬 真野 徹氏・撮影)



アラスカのハマシギを探してください。

秋はシギ・チドリ類の観察シーズンです。右の図のフラッグや色足環を付けたハマシギを観察された方はご連絡ください。また、ハマシギ以外の標識付きの情報もお寄せください。

【報告項目】発見者の氏名・連絡先(住所・電話番号など)・発見日時・場所・鳥の種類・フラッグや足環の色・一緒にいた群の個体数・性別・年齢・羽色(夏羽か冬羽か)・その他の特徴(わかる範囲でお願いします。)

また、写真があれば提供してください。

【報告先】山階鳥研・標識研究室(担当・茂田)

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115 FAX: 0471-82-4342

E-mail: shigeta@yamashina.or.jp

【アラスカ北部の場合】

